



# PREX NOW

No. 189

November  
2009

財団法人 太平洋人材交流センター  
Pacific Resource Exchange Center

contents

page 1 ●ニュース&レポート 1

研修の成果が目に見えるかたちに

page 2 ●ニュース&レポート 2

現地でのビジネス成功に期待

page 3 ●ニュース&レポート 3

3ヵ年計画の終了と今後への期待を込めて

page 4 ●協力企業特集

サラヤ(株)／京都信用金庫

(株)エアコンサービス／根本特殊化学(株)

page 5 ●ひとこと

海外で考えたこと

独立行政法人 国際協力機構(JICA)

兵庫国際センター所長 伊禮英全氏

page 6 ●PREXだより

事務局ニュース、11月実施の主な研修、  
インターンシップを体験して、コラム、研修実績



途上国と関西にとって、  
なくてはならない  
存在になることをめざす。



ニュース&レポート 1

News & Report

## 研修の成果が目に見えるかたちに

受入研修 環境 兵庫県・広東省草の根技術協力事業

本事業は2006年に兵庫県と提案し、JICAの草の根技術協力事業として採択された。2007年度より3年間実施してきた訪日研修は、今年度で最終年度となった。3年間で計13名の環境対策に携わる行政官が研修に参加した。今回の研修開始時に、団長の林氏から第1、2年次研修員の帰国後の成果が報告された。来年1月には、最後の専門家派遣を行う予定である。

### ■ 第1、2年次研修員の帰国後の成果

第1年次研修員

- ① 広東省生産力促進センター …… 吳蕃蕤氏
  - 同研修の研修員選抜及び訪日準備など同研修実施に現地で必要とされる業務を担当。
  - 帰国研修員への常時連絡とアクションプラン実行を促進。
- ② 広州市環境保護局 …… 陳卓全氏
  - 吳氏との共著「循環経済と広州の実践」を2009年末に刊行予定。
- ③ 広州電器科学研究院 …… 孔偉氏
  - 日本で学んだ成果をまとめ、雑誌に論文を発表。
  - 研究院にて企業へのコンサルティングを実施。
- ④ 広東国際科学技術合作協会 …… 尹怡然氏
  - 広州で開催された中国・ドイツ環境保護技術シンポジウムを運営。
- ⑤ 順徳市科学技術局 …… 黄金梁氏
  - 順徳市にリサイクル科学技術特別基金を設立。

第2年次研修員

- ① 広州市環衛局 …… 司承賢氏
  - 広州市興豊生活ごみ処理場内に青少年科学普及教育基地を設置。(同基地には現在までに小中学生を中心として5万人の見学者が訪問)
  - 広州市の大学でゴミの分別・回収・再利用に関する知識普及活動を実施。
- ② 広東省科学技術庁 …… 李穗懷氏
  - 汚染防止条例の制定(環境保護局と協力)。
  - 循環経済廃棄物技術開発プロジェクトの立上げ及び同プロジェクトへの500万円の補助金獲得。
- ③ 広州市固形廃棄物管理センター …… 張保宗氏
  - 広州市固形廃棄物登録制度を構築。
- ④ 深セン危険廃棄物処理ステーション …… 劉輝氏
  - 日本の産業廃棄物管理票(マニフェスト)を参考に、危険廃棄物のマニフェストによる管理及び電子情報化システムを構築。

### ■ 今年度研修員の気づきと環境改善への熱意

今年度の訪日研修最終日には、成果発表会を実施し、研修の成果と帰国後のアクションプランについて研修員から発表してもらった。日本の特徴として、法体系が整備されており、実際に法律が守られていること、各施設が高度な技術と管理で運営されていること、市民の環境意識が高いことが挙げられた。帰国後、それぞれの職務に合わせて、廃棄物処理やリサイクルの普及、改善に取組み、ゴミの分別普及活動や小中学生への環境教育など、特に市民への環境啓発活動には力を入れていきたいとのことである。

— 国際交流部 コースプランナー 奥村 玲美



協力機関と研修員とで記念撮影。

### 兵庫県・広東省草の根技術協力事業

- ◎実施期間 2009.8.25～9.10
- ◎研修参加者 中国・広東省において資源循環・廃棄物処理に携わる行政官、廃棄物処理施設職員4名
- ◎関係機関 兵庫県、JICA兵庫国際センター

### お世話になった方々、企業・団体他 (敬称略、五十音順)

産業技術短期大学 長澤講師、ひょうご環境創造協会、エスクミツ川、浜田、京エコロジーセンター、兵庫県環境クリエイティブセンター、東京都環境局中防不燃ごみ処理センター、エコギャラリー新宿、環境省、パナソニックエコテクノロジーセンター、ジェイ・エム・アール、NPO法人大阪環境カウンセラー協会、兵庫オートリサイクル、神戸市立多聞東中学校、新日本開発、RBN、明石クリーンセンター



## 現地でのビジネス成功に期待

受入研修 経営管理 ウズベキスタン、キルギス日本センター ビジネスコース実務・運営管理研修

本研修は、国際協力機構（JICA）からの委託で実施した3週間の研修。参加者は、ウズベキスタンとキルギスの日本センターでビジネスコースを成績優秀で修了した企業経営者及び幹部と、日本センターを運営管理する職員。企業訪問での経営者との意見交換や工場見学を通じ、現地で学んだ内容の理解を深め問題解決のヒントを得た。また、研修機関も訪問し、ビジネスコースの運営管理のレベルアップを目指し、意見交換した。

今回の研修参加者は、ウズベキスタン・キルギス各4名、内ウズベキスタンの1名がセンター職員でそれ以外は企業経営者或いは幹部。とはいっても20代が4名もいて、しかも複数の全く業種の異なる会社を運営している人も多く、若くて意欲満々のメンバー。現地で具体的なビジネスプランを立てており、それに沿った企業訪問を希望していた。しかし、景気低迷の昨今、思い通りにはアレンジ出来なかったが、結果的には全員にまずまずの評価を受け、目標がほぼ達成出来てホッとした。

### ■ 自らの目で理解した5S

さて、本研修のひとつの目玉として、レアメタルで有名なアドバンストマテリアルジャパンの中村繁夫社長にご登場願ひ、「中央アジアにおけるビジネスと展望」と題し、中央アジアにおけるレアメタルビジネスの実情



住友電工情報システムでTV会議システムを見学。

に加え、経営理念や人生哲学に及ぶ含蓄のあるお話を頂戴した。「右手にソロバン、左手にロマン、背中にガマンの経営」等々名言も沢山盛り込まれ、我々同行していたスタッフも大いに薫陶を受けた。研修参加者は「イメージしていた日本人ビジネスマンと違う!」と驚きながらも、強く刺激を受けた様である。また、企業訪問では、現地センターから、5Sやかんぱん方式等現場活動の実際を見せて欲しいとの要望があり、取り組まれている企業に特にお願いしていた結果、強い印象を受け、「やはり自分の目で見ることで理解を深めることが出来た」と喜んでた。

### ■ 日本が大好きな研修参加者

一方、日本センター職員は、民間研修機

キリン堂店舗見学のついでに買い物。



関の(株)キートン・サクセスや関西学院大学の梅田キャンパスで、日本のビジネススクールの現状を視察した。また日本的競争の原点ともいべき学校教育の授業参観を芦屋市の打出浜小学校にお願いし、印象的な一日を過ごした。

今回の研修は夏の暑い時期ではあったが、自由時間に奈良を訪れたり、東京での自由行動など積極的に動き回り、改めて日本好きを見せ付けられた思いである。それぞれ今回の経験を活かして自社を発展させ、何らかの形で日本とのビジネスが成功することを祈りたい。

— PREXシニアコースリーダー 稲本 治朗、  
国際交流部 担当部長 大西 正機

## TOPIC IT企業の生き残り方法はハウ・レン・ソウ

最終のプログラムとして、京都大学経済研究科に留学中のキルギスの民間人ゴレフ・アントン氏26歳との意見交換の時間を設けた。アントン氏は、本研修のコースリーダーである(株)クリエイション代表の内海先生が懇意にされているキルギス人社長のIT企業に在籍する副社長で、将来開設する日本支店を任される予定。

非常に優秀で人柄も良く且つ日本語がペラペラな若者で、内海先生を通じてお願いしたところ快くお受けいただいた。現在の業務概要の紹介に続き意見交換に入ったが、終始ロシア語で直接話合ったこともあり、和気藹々とした雰囲気の中、幅広い質問や意見が飛び交った。

その中で「IT企業の生き残り方法は」という質問に対し、「報連相」の重要性を挙げるなど、日本通を披露される一幕もあった。ウズベキスタン、キルギスの日本に対する期待は大きく、早速具体的に仕事に活かそうとの手探りもあり今後が楽しみである。PREXとしても中央アジア方面の研修において、是非彼のご協力を引き続きお願いしたいと考えている。



京都大学経済研究科 ゴレフ・アントン氏

### ウズベキスタン、キルギス日本センター ビジネスコース実務・運営管理研修

- ◎実施期間 2009.8.24～9.11
- ◎研修参加者 ウズベキスタン、キルギスの民間企業幹部7名  
ウズベキスタン日本センター職員1名
- ◎委託元機関 JICA大阪国際センター

### お世話になった方々、企業・団体他

(敬称略、五十音順)

クリエイション 内海政嘉代表、新潟経営大学 イワン・ツェリシェフ教授、松下幸之助歴史館、住友電工情報システム、中農製作所、ヤマキインテリア、伍島福、バトライト、西陣織会館、パナソニックセンター大阪、PREX井上久生専門家、アドバンストマテリアルジャパン、フロントコーポレーション、トヨタL&Fカスタマーセンター、イー・旅ネット・ドット・コム、江戸東京博物館、大阪東信用金庫、クリエイションコア東大阪、フェリシモ、協同食品センター、キートン・サクセス、関西学院大学梅田キャンパス、キリン堂、芦屋市立打出浜小学校、京都大学経済研究科留学生 ゴレフ・アントン氏





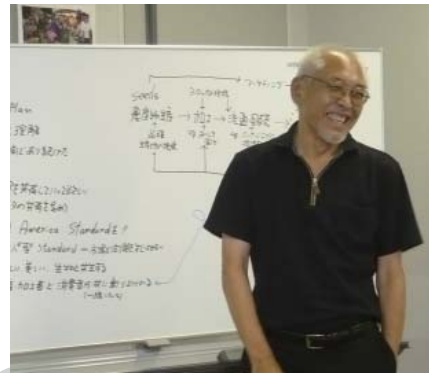
## 3カ年計画の終了と今後への期待を込めて

【受入研修】 地域振興 中米地域官民パートナーシップによる地域産業振興

PREXは2001年度から2005年度までの5年間、JICA大阪の委託を受け「メキシコ中小企業・地域産業振興政策コース」を実施した。この研修参加者が帰国後、現地でも積極的に取り組みを展開する成果が確認され、地域産業振興に対する現地のニーズの高さを実感した。この結果を受け、PREXがメキシコに隣接する中米地域諸国での地域産業振興のための研修実施をJICAに提案し、2006年からスタートしたのが「中米地域官民パートナーシップによる地域産業振興」研修である。

今年度は同研修実施の3年目で一区切りにあたる年度であったが、この3年間で「官民パートナーシップ」による地域振興という特色ある研修として一定の評価をいただくことができた。

中米諸国では、貧困削減のための産業振興や雇用の創出が大きな課題となっており、これらの課題を解決するひとつの方法として、官(=行政)の支援と民(=地域企業や住民組織)の自助努力の相互の協力による効果が期待され、地域に根付いた産業の振興を図ることが有益である。日本での研修では、「地域産業振興」「地域連携」「地場産品による産業の振興」の3つを重要なテーマとして捉え、テーマ毎に官民が連携した事例を多く紹介した。研修参加者は実地で取り組みの実例とその成果を学ぶことで、日本の地域振興について理解を深めることができた。



コースリーダーの奈良県立大学村田教授

### ■ 地域の主体性と支援の連携がポイント

この研修では、3年間コースリーダーとして指導いただいた奈良県立大学の村田武一郎教授が提唱されている「エコロジカル・ディベロップメント」(再生可能な地域資源の有効活用による、地域の人々が主体となった地域活性化)の理解と自国での実践を第一の目標に据えた。この3年間の研修員全員が、地域産業振興を継続して実践していくには、地域が連綿と引き継ぎ育ててきた自然、生活文化などの地域資源を活かし、地域の人々に主体性を発揮してもらえらるような支援を適切に行うことが重要であることを理解したであろう。

### ■ 研修参加者が地域のキーパーソンに

地域産業振興を理解する上で、もう一つ重要なのは、「ひと」の役割。各地で地域産業振興を成功させているキーパーソンから、直接話を伺う機会を持つことも、研修で学ぶべきポイントの一つ。例えば、「葉っぱビジネス」で有名になった、徳島県

上勝町にある株式会社いりどりの横石社長や、川西市の特産品「イチジク」の葉を使ったお茶を開発した、川西市商工会の喜谷理事には3年間続けて話を伺うことができた。また、奈良県高取町の高取土佐街なみ天の川計画実行委員会の野村代表や、滋賀県高島市アドベリー推進協議会の梅村会長など、地域のキーパーソンと対話をすることができ、研修員は中心的な役割を果たす「ひと」が重要なことを理解したのは間違いない。3年間の研修員34人が、帰国後、地域振興のキーパーソンとなり自ら活動してくるようになれば、研修を企画した者として嬉しい限りである。

もう一つ重要なことは、参加した国々のネットワークづくりである。村田教授がいつも研修参加者に言われたのが「つながり・信頼関係づくり」。この研修での「縁」を活かしてネットワークが形成されることも、研修参加者に期待しているところである。各国にはそれぞれ特長があり、それぞれで何かひとつ拠点の役割を果たすものを創り上げ、各拠点で生まれる成果を共有しあ

うネットワークができれば、中米地域は、これまで以上に、各国が個性的魅力を発揮しつつも総合力を持つ素晴らしい地域になるであろう。

今後も同様の研修が継続され、エコロジカル・ディベロップメントの輪が中米地域にも広がっていくことを期待している。

— 国際交流部 西阪 三友紀

### 中米地域官民パートナーシップによる地域産業振興

- ◎実施期間 2009.8.31～9.18
- ◎研修参加者 中米6カ国(コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、ドミニカ共和国)で地域産業振興に携わる行政官と重点産業の協同組合あるいはリーダー的役割を果たす企業の幹部
- ◎委託元機関 JICA大阪国際センター

### お世話になった方々、企業・団体他

(敬称略、五十音順)

奈良県立大学 村田教授、近畿経済産業局、奈良県立大学 松田客員教授、徳島県上勝町 笠松町長、いりど、高取土佐街なみ天の川計画実行委員会、木遊館、植和紙工房、辰田製作所、石景庵、ふるさと元氣村、清澄の里・栗、川西市商工会、新産業創造研究機構、アドベリー生産協議会、滋賀県高島市商工会、滋賀県高島市役所、奈良県工業技術センター、長龍酒造

### TOPIC 奈良の工房街道 ひと、文化、食を満喫

奈良県東部地域には、多くの工房が立地しており、他地域の人々と信頼関係をつくる諸活動が行われている。近年、この地域は工房街道と呼ばれており、今年度は、地域産業振興に熱心に取り組んでいる事例を学ぶことを目的に、初めてこの地域を訪問した。箸作りや紙漉きの工房を訪問して、伝統的な地域文化を守ること、地域資源を活用することの重要性の説明を聞いた後、研修員自らがそれぞれ体験も行った。箸も和紙も細かい作業が必要で、日本人の器用さを実感しながら、楽しそうに体験に取り組んでいたのが印象的であった。当日は工房街道にある旅館に宿泊し、地域産品を中心とした食事に舌鼓。工房街道地域の「ひと、文化、食」を満喫した一日となった。夕食後はカラオケ大会となり、「上を向いて歩こう」の大合唱。研修員たちが日本を好きになってくれたのは間違いない。



工房街道地域にある辰田製作所を訪問、割り箸工場内。

## サラヤ(株)

世界の「衛生、環境、健康」に貢献することが会社のミッション

大阪市東住吉区 <http://www.saraya.com/>

「マレーシア行政初級管理職研修」で訪問

同社の主要な事業分野は食品衛生、公衆衛生である。昨今、新型インフルエンザの世界的蔓延を背景に公衆衛生分野での同社の活動の重要性が高まっている。特筆すべきは、同社の主要商品の原材料の調達先であるマレーシアの環境保全の為にファンを立ち上げ、売り上げの一部を提供されている点である。講義では「サラヤグループの環境レポート」やISOの取組事例を紹介いただいた。同社の製品が、マレーシアのパーム油を原料としたもの多いことから、研修参加者らは講義に熱心に聞き入り、同社の企業理念にも深く共感した様子であった。



講師の小辻課長を囲んで研修参加者一同談笑。

## 京都信用金庫

地域とともにコミュニティバンク

京都市下京区 <http://www.kyoto-shinkin.co.jp/>

「中小企業政策セミナー」で訪問

開発途上国の中小企業支援に携わる行政官を対象とした「中小企業政策セミナー」で、京都の中小企業の発展を支える京都信用金庫を訪問した。同金庫は、「金融サービスを通じて地域社会に新たな社会的紐帯<sup>ちゆうたい</sup>、人々の絆を育むこと」を社会的使命に掲げ、地域に根ざした信頼できるコミュニティバンクとして「地域の絆づくり」に取り組んでいる。研修当日は、中田常務理事より、日本の銀行制度の概要から、同金庫の日常の業務内容まで幅広く講義していただいた。研修参加者は、同金庫のきめ細かな顧客対応に感銘を受けていた。



10カ国から10名の行政官が訪問。中央が中田常務理事。

## (株)エアコンサービス

地球を守るプロ

東京都港区 <http://www.airconservice.co.jp/>

「ベトナム日本センター 講師、運営管理研修」で訪問

同社は、エアコンの設備工事、メンテナンス、フロンガス回収を行うサービス企業であり、どのメーカーの製品にも対応できる稀有な存在である。社員の入社時に、独立の意向を確認し、応援する人材育成、経営計画書を社員全員で共有することなど、そのユニークな人材育成・経営手法についてはメディアにも多く取り上げられている。講義当日は、井上会長から、創業の経緯から海外展開まで、幅広くご紹介をいただいた。特に、社員が独立することを応援する人材育成の考え方は、転職率の高さに悩む企業の多いベトナムの研修員には、驚きであった。



ベトナムの研修参加者と井上弘会長(後列中央)と、岡村正志国際部部长(後列左1番目)

## 根本特殊化学(株)

人と地球のための化学

東京都杉並区 <http://www.nemoto.co.jp/>

「ベトナム日本センター 講師、運営管理研修」で訪問

同社は、夜光塗料にかかわるコア技術(蛍光体製造技術、放射線取扱技術、塗装・印刷の技術)を中心とした、技術指向型企業である。同社が開発した「ルミノーバ」は、世界の夜光時計を制覇し、その高い性能・技術により、日経優秀製品・サービス賞、大河内記念技術賞を受賞するとともに、2005年には「特許活用優良企業」として、経済産業大臣から表彰を受けた。各国で避難誘導標識に採用されるなどその用途を拡大している。社員を大切にし、高い技術力を持ち、海外にも事業を展開されている同社に、研修参加者一同、心底感銘を受けていた。



根本会長のお話に聞き入る研修参加者たち。





## 海外で考えたこと

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
兵庫国際センター所長

い れい えいぜん  
伊禮 英全 氏

本年の6月に前所長の森川秀夫の後任として着任いたしました伊禮英全です。このたび海外での6年半にわたる勤務を終えて日本に戻ってまいりましたが、政治・経済・社会面のあらゆる面で、国内の暗い世相にびっくりしています。

しかしながら、私はこれまで海外勤務の中で若い青年協力隊員やシニア海外ボランティアの方々の活動を現地でサポートする仕事をしてきたおかげもあって、このような閉塞感の中でも、ある意味『日本人に対する信頼』という形で元気と希望を見出しています。

### 現地で活躍する日本人の志と姿勢

計算高い、クールで宇宙人のようだと親父世代に評される日本の若者。その若者の代表である青年海外協力隊員が、実は、開発途上国の厳しい現実の前で、自分の力のなさや無力さに、自尊心を傷つけられて悩み苦しむ姿を私は見してきました。意外だったのは、その中の多くの隊員が予想に反して、自分に都合のいい事実だけを要領よくつまみ食いし、自己の中に生じる疑問や矛盾をさける『狡猾さ』がまったくなかったことです。私自身、それまで日本の若者を軽々しく判断していたことを、恥ずかしく思いました。それだけ隊員たちは誠実に悩んでいたのです。

また、あるシニア海外ボランティアの方は、言葉でカウンターパートを納得させるだけのコミュニケーション能力がないことを嘆きながらも、『毎日毎日、不斷の努力を続けることの大切さを、誰か一人だけでも自分の背中を見ていて気づいてくれるはず。私には愚直に繰り返しくりかえし、基礎の大切さを実践して見せることだけしかできない』と自嘲気味に笑いながらも、2年間の活動を見事に全うしました。そこには、ものづくりに懸命に打ち込んできた職人のプライドがありました。

### 日本人の最大の『強さ』

老若の差こそあれ、そこに共通するのは、『自分が与えられた環境のもとで、社会(受入国)に貢献したい、役立ちたい』とする志があったことと、『派手なこととはできるだけ遠ざけ、努力を続けること』を愚直なまでに推し進めていく姿でした。

まさにこうした公の利益に貢献することを尊いものとする考え方や社会全体に対して誠実でありたいとする姿勢こそが、多くの日本の国民が広く分かち合ってきた日本人の最大の『強さ』ではなかったのではないのでしょうか。

はなはだ強引な結論ですが、こうした日本人の資質を保持する限りは、必ず『日はまたまた昇る』と言いたいのです。日本人はまだまだ捨てたものではありません。

PREXと協働で行っている研修員の受け入れ事業についても、研修員の方々が、単に省力化や合理化につながる先進的な技術だけでなく、こうした日本人の姿勢や価値観をも理解していただきたい、と私は願っているのですが、果たしてこれは欲張りなことなのでしょうか。

PREXでは、これまでJICA兵庫国際センターから、日系人研修や日本センター関連研修を受託しています。現在は、「兵庫県、広東省草の根技術協力事業 資源循環社会における中国の都市環境整備システムの構築」を2007年度より3年間実施しています。この事業に参加した研修員の帰国後の活躍は、本号1ページで紹介しています。

JICA兵庫国際センター ホームページアドレス：<http://www.jica.go.jp/hyogo/>



事務局  
ニュース

### 11月実施の主な研修

#### ■ 中東地域観光開発

- ◎期間：2009.11.2～20
- ◎対象者：エジプト、パレスチナ、イエメン、シリアの観光及び地域振興に関わる行政官 5名
- ◎委託元機関：独立行政法人 国際協力機構 (JICA)大阪国際センター

#### ■ 中央アジア経済団体強化コース

- ◎期間：2009.11.6～27
- ◎対象者：キルギス、カザフスタン、ウズベキスタンからの経済団体関係者、政府関係者及び企業幹部 計9名
- ◎委託元機関：独立行政法人 国際協力機構 (JICA)大阪国際センター

#### ■ 西安市水環境整備事業第四期

##### 下水技術研修

- ◎期間：2009.11.17～12.2
- ◎対象者：西安市の西安市において水環境改善を担当する行政官等 24名
- ◎関係機関：京都市、独立行政法人 国際協力機構 (JICA)本部

### インターンシップを体験して(2009年8月24日～9月24日)

阪南大学 国際コミュニケーション学部 国際観光学科 安達七菜さん

夏季休暇を利用し3週間のインターンシップに参加しました。今まで過ごした中で一番有意義な時を過ごせることができました。

一番心に残ったことは、「ありがとう」という言葉の力でした。修了式の際に研修参加者の方が「ありがとう」と言ってくださった瞬間にたくさんの感慨が込みあがってきました。それは「充実感」、「感動」、「安堵」、「悲しさ」でした。

「ありがとう」という言葉は単に感謝の意を表す言葉ではなく、その一言にたくさんの意味がこめられている言葉だと実感しました。

また挑戦する大切さを学ぶことができました。もし私がインターンシップに挑戦しなければPREXを知ることなかったでしょう。しかし挑戦したことにより、とても貴重な時間と出会いを経験することができました。また挑戦することによって少しずつ自分が成長していく姿が感じることができました。

3週間という短い間でしたがPREXを通してここには書ききれないたくさんのことを学びました。その学んだことを活かしこれからの活動へ繋げていきたいと思います。



長龍酒蔵で中米からの研修参加者と。前列左端が安達さん。

## C O L U M N

### 直球質問「儲かっていますか？」

国際交流部 担当部長 加藤 寿郎

「私も社会人大学を始めるんです」成功させるには…。

昨年も担当したJVCC(ベトナム日本センター)のベトナム外国貿易大学講師研修とJVCCの副所長が参加するビジネスコース運営管理研修を猛暑の8月に担当した。

ベトナムの急速な発展に期待する日本人は裾野産業の育成が喫緊の課題と語り、この研修のコースリーダー・流通科学大学の上田義朗教授は「急げベトナム！」と叱咤した。JVCCは新たな収益事業の柱にMBA並の経営塾を計画し、今後ベトナム人に運営管理を任せ、副所長がこれを担当する。このような意図を事前に知り、現地の期待に合わせた訪問先を取り入れた。

事業損益を聞かなくて良いのか？と促すと「そんなことを聞いてもいいんですか？」と関学梅田大学院キャンパスでは躊躇していたが、翌日関西社会人大学院連合では損益のほかに、不足資金の補填先まで聞く自然な質問が出た。この直球質問に正面から答えてくる訪問先にめぐり会えた僥倖を、コーディネータとして冥利に感じた。



綺麗なキャンパス内を定藤関西学院大学副学長に案内していただき、感激する研修参加者。

### PREXの 研修実績

2009年  
9月末現在

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通しての国際的人材交流促進に努めています。

#### ●研修累計(1990～)

425コース

#### ●受講者累計(1990～)

124カ国・地域 12,433名

【受入(訪日)研修 3,861名／海外研修 8,572名】

#### ●2008年度実績

38コース 822名

受入研修30件、海外研修7件、同窓会フォローアップ事業1件

#### ●2009年度(予定)

37コース 880名(見込)

受入研修30件、海外研修6件、同窓会フォローアップ事業1件

編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター  
専務理事 藤田 賢次

〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24  
pia NPO 5階 502号室

TEL 06-4395-2650  
FAX 06-4395-2640

ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>  
電子メールアドレス: [prexmail@prex-hrd.or.jp](mailto:prexmail@prex-hrd.or.jp)